

■自然共生園とは

東北地方のきびしい自然と人とのかかわり合いによって育まれた文化や里の自然を体験し、楽しみながら学ぶことができる施設です。再生された里の田園風景、居久根、草原、湿地、牧野など、みちのくらしい動植物が豊かな里の自然を、散歩しながら楽しめます。

■見どころ紹介

～里地の自然～

耕作地・水田・居久根

畑では、ソバや麦、青菜や蕪、豆類など東北地方の食文化にちなんだ作物を栽培しています。春は青麦が風にそよぎ、夏はソバの白い花が一面を覆い、秋は柿や栗が実ります。懐かしさとぬくもりのある、みちのくらしい里地の風景が楽しめます。

「居久根」とは屋敷林のことで、季節風を防ぎ、落葉や焚付けを採るための暮らしに欠かせない林でした。居久根に植えられた、田打ち桜とよばれるコブシが咲くころになると、その年の農作業が始まります。

～草原の自然～

展望野草園・サクラソウ園・放牧区

草が飼料や肥料として必需品であった時代には、里地に草原が維持されていました。草が利用されなくなると草原もなくなり、今では草原特有の動植物が絶滅に瀕しています。ここでは、かつて人の手で維持されていた草原（半自然草原）の再生を目指し、オキナグサ、サクラソウ、カワラナデシコ、キキョウなど、50種類ほどの野草を、この地域のタネから育てて増やしています。

放牧区ではヤギやヒツジを放牧し、ふれあい体験ができます。初夏に刈る羊毛は手仕事体験に利用しています。かつて草刈の時に使用した草泊りを復元してあります。

～水辺の自然～

湿生花園・ヨシ原・スゲ原・ヤナギ湿地林・小川

湿生花園では再生した湿地で、野草をタネから育てています。初夏から秋にかけて、カキツバタ、チダケサシ、クサレダマ、ヌマトラノオ、ミソハギ、コバギボウシ、サワギキョウ、オオニガナ等が咲きます。ヘイケホタルも生息するようになりました。

ヨシ原やスゲ原、ヤナギ湿地林は、かつての水田の跡地です。初夏のヨシ原ではオオヨシキリが子育てを行います。園内を流れる小川ではアブラハヤやスナヤツメ等の魚類、カワトンボ等の水生動物が生息しています。

～樹林の自然～

コナラ林・崖線樹林・ヤナギ林

コナラ林や崖線樹林では、下刈を行って明るい雑木林を再生し、樹林特有の野草を育成しています。春にはルリソウ、クリンソウ、初夏にはニッコウキスゲ、夏にはソバナ、秋にはキバナアキギリ等、四季折々の野草が咲きます。野草の豊かな雑木林の散歩が楽しめます。



..... : 春の花野探勝おすすめコース (2,000m)

..... : 山羊ふれあい体験場所へのコース (230m)

▲ : 見所

～展望野草園からの蔵王の眺め～

快晴の日には、展望野草園の頂きから屏風岳、熊野岳など蔵王の山々の眺めが楽しめます。

また、東側には、北川を挟んでコナラの雑木林で覆われた里山地区や、こんもりとした釜房山が望めます。里山地区へは、ドックランの傍の橋を渡って、歩いて行けます。展望野草園から里山地区小野分校まで、約 1.9 km です。



～体験施設～

自然共生情報館

自然共生園の受付です。園内の見所や草花を、展示や映像などで紹介しています。草を素材としたクラフト等の体験ができるほか、イベント情報、野の花情報、生き物情報なども発信しています。随時、自然再生や農園活動、手仕事活動のボランティアさんを募集しています。

知恵体験舎

板の間や縁側で、のんびりと休憩できます。体験イベントでは、農作業体験や、ここで採れた作物を使った食品加工体験など、みちのくの自然との共生が育んだ暮らしの知恵が学べます。

●お問い合わせ先：みちのく公園管理センター

電話 0224-84-5991 (代表)

〒989-1505

宮城県柴田郡川崎町大字小野字二本松 53-9

<http://www.michinoku-park.info/wp/>



今日はここを観てみよう！

■湿地に咲く花

サワヒヨドリ (位置A・B)

キク科の多年草で、湿地に生えます。草原のヒヨドリバナによく似ていますが、葉が輪生し、花の色が赤みを帯びます。展望野草園のものはヒヨドリバナとの雑種です。



コバギボウシ (位置B・C・G)

北海道から九州の湿地に生える多年草です。花穂の花は下から咲きはじめ、それぞれの花は1日でしぼんでしまいます。写真はクマバチが盗蜜しているところです。



ムカゴニンジン (位置B)

湿地に生えるセリ科の多年草で繊細な白い花をつけます。秋になると葉の付け根にムカゴをつけます。目立たないこともあり、各地で絶滅に瀕しています。



今日はここを観てみよう！

■湿地に咲く花

サワギキョウ (位置B)

湿地に生えるキキョウ科の多年草です。青紫色の花をよくみると、鳥のような形です。その頭の部分にあたる筒のような先に毛があり、マルハナバチがその毛に触れると花粉がこぼれ出て背中につきます。ハナバチや蝶は蜜を食べていますが、有毒植物です。横溝正史の推理小説『悪魔の手毬唄』では「お庄屋殺し」の名で登場します。



エゾミソハギ (位置B)

湿地に生えるミソハギ科の多年草です。盆花に利用するため、昔は水田の片隅で育てることもありました。この花に水を含ませてお供物にまき、禊を行う風習があります。



みちのく公園北地区

てくてくマップ 自然共生園

8月

今日はここを観てみよう！

■草原に咲く花

オミナエシ (位置D・E・F)

万葉集や源氏物語にも登場する秋の七草の一種です。かつては川崎町でも盆花として街に売りに出すほど生えていましたが、今では絶滅寸前です。そのタネを譲り受け、この草原で増殖して保全しています。



イヌハギ (位置E)

乾いた草原に生えるマメ科植物で、白い花を咲かせます。釜房ダムの浚渫土から芽生えた個体です。環境省の絶滅危惧Ⅱ類、宮城県の準絶滅危惧種です。



ヒメシオン (位置F)

やや湿った草原にはえます。ヒメシオンも草原の消失等で各地で絶滅に瀕しています。名前が似たヒメシオンは外来種です。



今日はここを観てみよう！

■草原に咲く花

イブキボウフウ (位置D・E)

セリ科の多年草ですが、一度開花結実すると枯れてしまいます。蕾をキアゲハの幼虫が食べてしまい、開花結実できずに一生を終えてしまうこともあります。



フクシマシャジン (位置E)

キキョウ科の多年草で、本州中部地方以北の草原に分布します。ツリガネニンジンによく似ていますが、分布に限られ、ガク片が大きく、花も華やかな印象です。



ツリガネニンジン (位置D・E)

キキョウ科の多年草で、草原に生えます。釣鐘のような涼しげな花と、根が太く朝鮮人参に似ていることから、この名があります。若葉はトトキと呼ばれる山菜です。



今日はここを観てみよう！

■雑木林に咲く花

キツネノカミソリ (位置I・G)

春に葉が出て6月に地上部が枯れた後、8月に花だけ地面から出てきます。同じ仲間で帰化植物のヒガンバナは、開花の後に葉を出します。葉の形が剃刀に似ていることから、この名があります。



ヤマジノホトトギス (位置G)

ユリ科の多年草で、樹林に生えます。雄しべの下向きの葯は、訪花したマルハナバチの背中に花粉をつけます。



フシグロセンノウ (位置G・H)

ナデシコ科の多年草で、樹林や林縁に生えます。茎の節が紫褐色になることから、この名前があります。立秋の頃、緑深い森の中で、点々と鮮やかな花を咲かせます。

